

## (7) 産業振興施設

### 1) 農林業施設

#### ① 概要

本市には、6か所のふれあい農園と里山センターが1か所あります。(なお、簡易な倉庫や便所のみで構成される、総持寺、彩都やまぶき、島、彩都東の4か所のふれあい農園については本書の対象外とし、休憩所の建物を有する銭原、山手台のみを対象とします)。

ふれあい農園では、市内在住の人を対象に25~50㎡の区画を3年間契約で貸出しています。

里山センターは、市民参加による自主的な里山保全活動を行うための活動拠点となっています。里山センターでは指定管理者制度を導入しており、民間のノウハウを活かした施設運営に取り組んでいます。

里山センターは、廃校となった府立春日丘高校泉原分校を再利用して整備された施設で、昭和40年の建築から52年が経過しており、老朽化が進んでいます。また、耐震性に課題があります。

表 3-2-15 農林業施設の概要

No.	施設名	所在地	複合区分	運営形態	延床面積(㎡)	主要な建物の情報 (H29年末現在)			
						建築年	経過年数	構造・階数	耐震性
ふれあい農園									
1	銭原ふれあい農園	大字銭原593番地	単独	直営	104	H10	19	LS・1	○
2	山手台ふれあい農園	山手台二丁目122番地の1	単独	直営	93	H21	8	W・1	○
里山センター									
1	里山センター	大字泉原2番地の2	単独	指定管理	1,543	S40	52	S・2	



銭原ふれあい農園



里山センター

## ② 施設位置図



図 3-2-99 対象施設位置図（農林業施設）

### ③ 利用の状況

平成 28 年度の年間利用者数は、里山センターで約 1 万 3 千人となっています。ふれあい農園の貸出区画数は銭原ふれあい農園が 21 区画、山手台ふれあい農園が 66 区画となっています。

また、里山センターの貸室の稼働率（総利用可能コマ数に対する総利用コマ数の割合）は 8.2%となっています（貸室・時間帯別の稼働率の詳細については、3-3 で整理しています）。

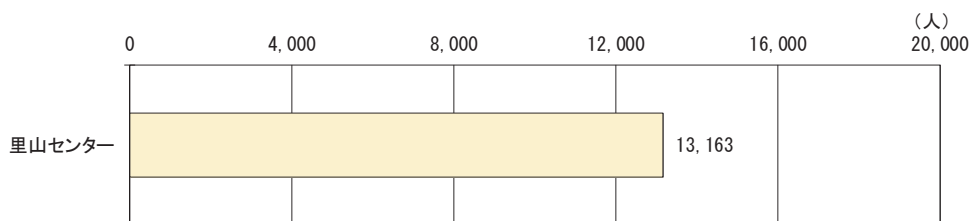


図 3-2-100 施設の利用者数 (H28 年度)

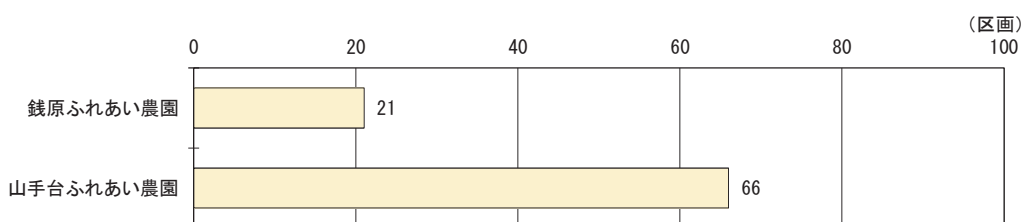


図 3-2-101 利用区画数 (H28 年度)

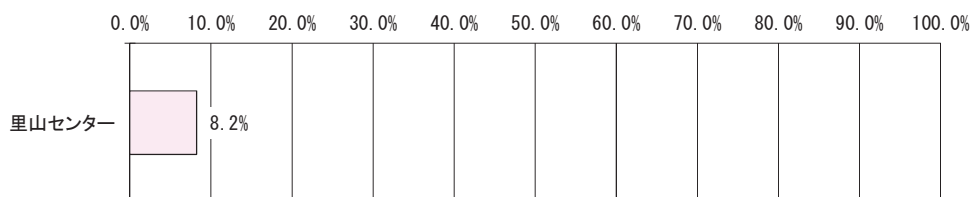


図 3-2-102 貸室の稼働率 (H28 年度)

### ④ 施設に関する総コストの状況

平成 28 年度の施設に関する総コストをみると、里山センターでは指定管理料として約 650 万円を支出しています。ふれあい農園では、施設の維持管理にかかるコストを使用料収入でまかなえるよう、使用料を設定していますが、近年、職員の配置体制の見直しを行ったことなどから、歳入が歳出を上回っています。

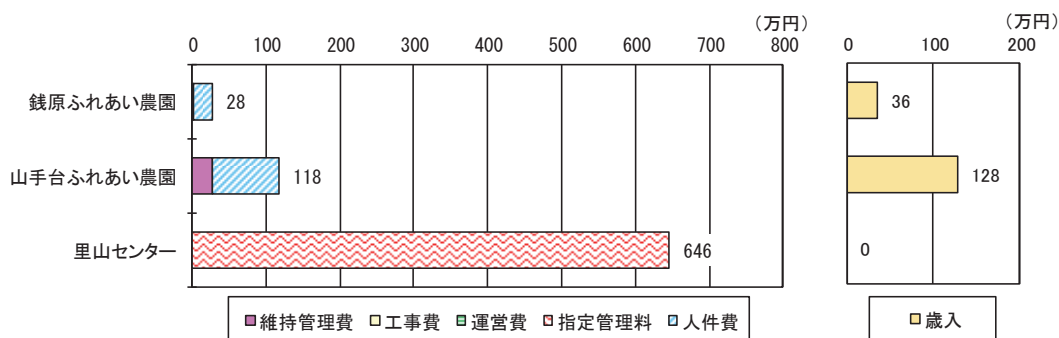


図 3-2-103 施設に関する費用と内訳 (H28 年度)

## ⑤ 単位あたりの市負担コストの状況

単位あたりの市負担コスト（工事費に係る歳入歳出を除く）について、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりで比較すると、里山センターで約 4 千円となっています。

また、利用者 1 人あたりで比較すると、里山センターで約 500 円となっています。

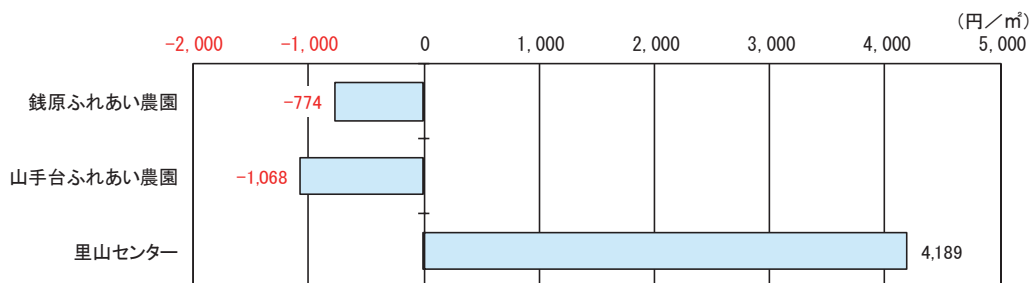


図 3-2-104 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの市負担コスト (H28 年度)

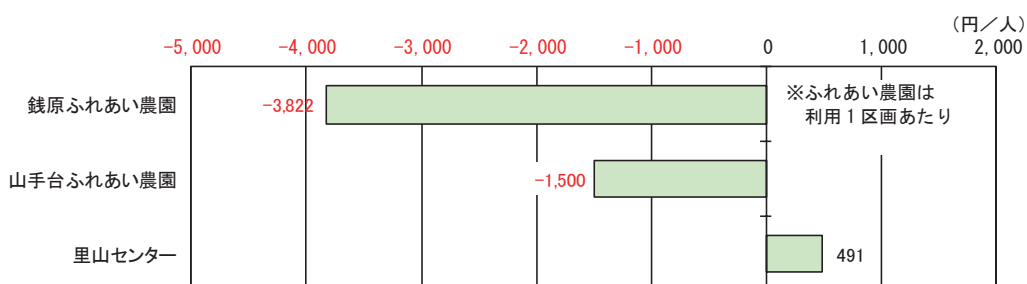


図 3-2-105 利用者 1 人あたりの市負担コスト (H28 年度)

## ⑥ 今後の課題等

- ・近年、自然環境の保全に対する取り組みが進められているほか、農に対するブームもあり、農家住宅等への関心も高まりを見せていることから、農林業施設に対するニーズは、今後も一定見込まれると思われまます。
- ・里山センターでは耐震性が確保されていないため、対策が求められます。
- ・ふれあい農園については、施設自体小規模で、一定のニーズが見込まれる施設ですが、民間による市民農園も開園されている中、市としての施設保有の必要性を検討したうえで、指定管理者制度の導入など、民間のノウハウの活用の可能性についても検討する必要があります。